



おか  
**岡 ひかる**さん

●三好小学校 6年

### みんなが 着てみたくなる服

私の将来の夢は、洋服のデザイナーになることです。

洋裁が好きなので、自分がデザインした洋服をイメージどおりに作る仕事をしたいです。できるだけデザインにあてる時間を多くとり、みんなが着てみたくなる服を考えたいと思います。

デザイナーの仕事は、常に流行を先読みしなければならないなど、たいへんなこともあると思います。しかし、やりがいもあるので、ぜひ夢を実現させたいです。



## 市長からの

## メッセージ



街路樹の葉も日ごとに赤や黄色に彩りをましていますが、市民の皆様におかれましてはいかががお過ごしでしょうか。

今年4日から「ねんりんピック栃木2014」が県内各地で開催され、市内でもゲートボールの交流大会が開催されます。先月からは市内各地域で敬老会が開催されており、お会いした皆さんの元氣あふれるパワーをたくさん頂きました。本市には9月1日現在で100歳以上の方が59名いらっしゃいます。最高齢は108歳の女性の方でございます。皆さんにはこれからもお元氣にお過ごしくださいと思います。

今年11日に市制10周年記念式典が文化会館で開催されます。新市が発足して早いもので10年となりますが、「市民病院の再生」や「新庁舎着工」など、この間さまざまな出来事がありました。また、「さのまる」のグランプリ獲得も私の中で印象深いことになりました。

グランプリを獲得したこともあり、さのまるは日本各地のみならず海外にも進出しております。先月24日から29日には、8月の香港フードエキスポ以来2度目の海外訪問として、英国を訪問してきました。ロンドンで開催された「ジャパン祭り2014」への参加および本市のPR活動や現地の団体との交流のため、佐野市訪英団として派遣したものです。今後も「さのまる」を牽引役に国内のみならず海外へも積極的にシティプロモーションを行ってまいります。

これからの季節、そば祭りなども各地で開催されます。皆様にはスポーツの秋、読書の秋、食欲の秋、それぞれの秋本番を楽しんでください。

岡部 正英

### 今回の表紙「第10回・市制10周年記念 市民体育祭」運動公園陸上競技場

9月14日、運動公園陸上競技場で市民体育祭(陸上)が開催されました。

この日行われた陸上の部では、トラック競技だけでなく、走り高跳びや走り幅跳び、また「玉入れ」や「ボール蹴りリレー」、「ゲートボールリレー」などの団体競技も行われ、小学生からお年寄りまで、各支部を代表する選手が競い合いました。



# 奥沢 昇さん

(葛生西)



## ○プロフィール

昭和25年生まれの64歳。  
東京都出身。結婚を期に佐野市へ移住。  
くずう原人まつりの実行委員長を務め、  
まちおこしの発起人のひとりとして葛生  
地区の発展に尽力している。



活気ある「まちおこし・ひと  
おこし」を目指して

8月23日、24日に第27回となる「くずう原人まつり」が開催され、多くの来場者で賑わい、盛大なお祭りとなりました。このお祭りの発起人のひとりであり、現在も実行委員長を務めるなど、葛生のまちづくりにかかせない人こそ奥沢昇さんです。

奥沢さんたちは、「葛生町(当時)を全国の人に知ってもらいたい。単に形に残るまつりじゃなく、心に残るまつりを作りたい」という気持ちから原人まつりを始めました。心に残るまつりを作るためには「まちおこし・ひとおこし」が不可欠であると感じ第1回から今回まで、ステージ運営では、直接出演者に向き交話し、まつりの熱い思いや気持ちを伝え、来ていただく。企画・運営は約40人のスタッフが看板や衣装を全て手作りにし、一つ一つの物に思いを込めることで、連帯感が生まれていく。そうして、まつりと共にまちづくり・ひとづくりへと繋がっていくことが大切である、と奥沢さんは考えています。

3年前に東日本大震災が起き、当時は自粛ムードも漂っていた中、あえて「葛生から東北へ夢と希望を」を合言葉に開催し、被災者と向き合えたことでより一層ひとおこしの必要



ゲンさん、運営のスタッフとともに(真ん中)

性を実感しました。

今までで思い出に残っていることを聞いた所、「過去の原人まつりでは原人の格好をして浅草駅までお迎えに行き、浅草駅のホームで原人リズムを叩いて盛り上げ、その後、葛生駅に着いてからは小学生のブラスバンドを先頭に嘉多山会場まで行進したことがありました。また、ねぶたを製作して葛生地区を練り歩いた企画もありました。もちろん、毎年開催するまつり一つ一つも最高の思い出です」と笑顔で話してくれました。

最後に、今後の抱負について「現在は、地方の過疎化が進み若手人員の不足が進む中で、将来、原人まつりが何年続けていけるかわかりません。地元の人たちだけでなく、他方からも活気ある人をどんどん巻き込んでいきたい。そして葛生のさらなる繁栄のために頑張っていきたい！よろしくお願いします!!」と力強いお言葉をいただきました。

(市民記者 飯田 瞬)

## 佐野市 ばんざい

### とうかん 投函すること をポツコムと いう

掛けやで杵(き)などを打って、地面に入れたり、かなづちで釘を打ち入れたりすることを共通語では「打ち込む」(「うちこむ」とも)といいます。これが変化して、方言ではポツコム・ブツコムといいます。

「土地の境目にはちゃんと杵をポツコムでおかネと、オツツケ(将来)エレコト(たいへんなこと)になるかんね」

手紙やはがきをポストに投函することも、ポツコムといえます。これも「打ち込む」が変化したもので、「入れる」のぞんざいな表現です。

「ちつと待つてクンネケ(ください)。手紙を郵便ポストにポツコムで(投函して)クツカン(来るから)ね」

池や川に石や物などを投げ込むこともポツコムといえます。

「川の流れにあんなに石ツコをポツコムで何するンダンベ?流れを変えて魚でも捕るンダンベか」

昭和の初め頃までは、地下深く掘って出る井戸水を飲み水としました。井戸を掘ること(または人)を「井戸掘り」といいます。その頃、地下深く鉄管を打ち込み、押上ポンプで水を吸い上げる方法も行われていました。

地中を掘ることや、鉄管を打ち込む(ポツコム)ことを、一般に「井戸(を)ポツコム」ともいっていました。昭和半ば頃からは、水道水が使われるようになると井戸掘りがなくなり、「ポツコム」は死語となっていました。

(市民記者 森下喜一)

